



新しい福光農業 「地域一農場化」をめざして (上)

ゲスト／幅田浩司(富山県JA福光 代表理事組合長)

第31回ゲスト

富山県JA福光 代表理事組合長
幅田浩司



はばた・こうじ
1957年生まれ。1980年富山大学を卒業後、福光農業協同組合に入組。2012年に監査部長、管理室長兼総務部長を経て、2015年に同JAの理事に就任。2021年代表理事組合長に選任され、現在に至る。

●インタビューとまとめ

三重大学名誉教授
京都大学学術情報メディアセンター研究員
石田正昭



いしだ・まさあき
1948年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、協同組合論。元・日本協同組合学会会長。三重大学、龍谷大学の教授を経て、現職。近刊書に『JA女性組織の未来 躍動へのグランドデザイン』『いのち・地域を未来につなぐ これからの協同組合 問連携』(ともに編著、家の光協会刊)。

JA福光(福光農業協同組合)

富山県の南西部に位置し、2004年以前は西砺波郡福光町であった。現在は、4町4村が合併し、南砺市の福光地域となる。1977年から組合員と一体となり共通のビジョンをつくる「協同活動強化運動」に取り組み、2023年度には第16次3か年を迎えている。



●組織の概況

組合員数：5,493 (正組合員：3,784、准組合員：1,709)

役員数：25 (常勤・非常勤含む)

職員数：174

設立：1966年3月

長期共済保有高：1328億8千万円

本店所在地：富山県南砺市荒木5318

購買品供給・取扱高：25億1千万円

出資金：9億7千万円

販売品販売・取扱高：20億円2千万円

貯金：672億6千万円

(2023年2月28日時点)

貸出金：54億円

●地域と農業の概況

南には岐阜県、西は石川県に接しており、1級河川の小矢部川が町の中心部を南北に流れている。そのため、豊富な水と自然に恵まれた稲作地帯である。コメのほかに、ブロッコリー、アスパラガスの産地であり、令和2年春から「福光にんじん生産出荷組合」を設立し、大規模産地化への取り組みをすすめている。

雪国の人間関係は濃い——そんなことを感じさせる対談だった。旧福光町を含めて、この地域の人たちのつながる心、つながって強くなろうとする心が、こころ豊かな協同活動を生みだしてきた。「福光農協一農場化」もその一環としてとらえられるが、今回は幅田浩司組合長に45年以上続く協同活動強化運動の真髓を語ってもらった。

■散居村、浄土真宗、集落営農

石田：J A 福光は南砺市内の旧福光町全域を区域としています。散居村で有名な砺波平野の南部に位置し、管内全域で集落営農が発達しています。

幅田：砺波平野の散居村の由来には諸説ありますが、わたしは医王山(いおうぜん)の山塊から吹いてくる強風を避けるために屋敷林(カイニョと呼ばれる)が必要だったことと、砺波平野を流れる小矢部川や庄川の氾濫から家屋を守るために田んぼダム的な機能が必要だったことが大きな理由ではないかと考えています。

医王山の山塊は石川県金沢市と南砺市にまたがる1,000メートル級の山々ですが、その山塊を乗り越えて強い西風や南西風が吹いてきます。この強い風雨や吹雪から家屋を守るために屋敷林が必要でした。家格の高い家ほど立派な屋敷林に囲まれて住むことを誇りにしてきました。

豪雪地帯を流れる小矢部川や庄川はたびたび氾濫を引き起こしましたが、その被害を少しでもやわらげるために家屋の周りを田んぼで取り囲む必要がありました。いわゆる田んぼの貯水機能の発揮です。田んぼの保全には水路の維持管理が必要ですから、水田稲作の発達とともに集落のまとまりも強いものになっていったと考えられます。

江戸時代、砺波平野一帯は加賀藩領でした。加賀藩は散居村には不適な田地割(でんちわり)を行いましたが、屋敷林の木陰部分の年貢を軽減する「影引き」や、田地割後、各農家が屋敷地の周りに耕地を集めるための「交換耕作」を認めていました。これによって地域全体が効率的な稲作を行うことができるようになったと考えられます。



石田：集落のまとまりというか、農民のつながろうとする心は、宗教とりわけ浄土真宗の影響が大きいとされます。「浄土真宗の信者が多い地域には、集落営農やそれを基盤とした農業生産法人が多い」と東京大学の故今村奈良臣教授が指摘しています(農業協同組合新聞「手をたずさ

えて農地を生かそう―集落営農と門徒を考える―」上・中・下、2007.11.13、2007.12.19、2008.2.28)。

幅田：確かに南砺市内には浄土真宗、とりわけ大谷派のお寺さんが多いように思います。お寺さんを中心に講が活発に行われていたので、農民のつながろうとする心も育まれていったのかもしれない。

大きなお寺さんとしては、福光ではありませんが、お隣の城端(じょうはな)に城端別院善徳寺(大谷派、1470年頃建立)があります。加賀藩前田家の庇護のもとで隆盛をきわめ、越中の触頭(ふれがしら)役(頭寺)を務めたとされます。

また、すぐ近くの井波には井波別院瑞泉寺(大谷派、1390年建立)があって、北国(加賀・能登・越中)の真宗信仰の中心を担っていました。戦国時代、越中一向一揆の拠点であったために佐々成政に攻められて落城し、一時は城端に移転していましたが、後に井波に戻って再建されています。

わが福光にも光徳寺(大谷派、1471年建立)という有名なお寺さんがあります。ご本尊は蓮如上人自作の黄金阿弥陀仏で、蓮如上人の直筆類や法宝物(ほうほうもつ)が所蔵されています。これらは蓮如上人御忌(ぎょき)が行われる毎年4月25日、26日に一般公開されますが、そのときは多数の観光客が訪れてきます。光徳寺は、板画家の棟方志功が戦時中に疎開して創作活動を行っていたことでも有名で、氏の名作を数多く所蔵、展示しています。

石田：なるほど、大谷派の有名なお寺さんがたくさんありますね。

幅田：このほかにも福光には結構大きなお寺さんがあります。たとえば、わたしの在所の高宮地区の随順寺(大谷派、1236年に真言宗宝生寺として建立、1477年に真宗に改宗)は、城端別院善徳寺や井波別院瑞泉寺には及びませんが、門徒は福光だけではなく、城端、井波にも及んでいます。

ちょうど3日前(2023年8月26日)の北國新聞(富山新聞)に、「随順寺、日曜学校60年 お勤め、ゲーム楽しく」という記事が出ていました。「毎月第2、4日曜朝、本堂で『日曜学校』を開いており、地元の児童がお勤めの後、ゲームを楽しんでいる。児童は『仏の子どもになります』『正しい教えを聞きます』『みんなと仲良くします』と誓った後にゲームを楽しむが、7月は時間を多めにとって七夕飾りを制作した」と報じられています。

■ 第16次協同活動強化運動(中期計画)を展開中

石田：J A福光は「協同活動強化第16次3か年運動」(2022年度～24年度)を展開中です。協同活動強化運動は第14回(1976年)と第15回(79年)の全国農協大会で決議されましたが、この決議を受けてJ A福光では77年度からこの運動を開始しています。今から46年前のことです。

この運動の趣旨は「組合員が自発的な協同活動を起こし、主体的に営農と生活

の向上を図ること、農協はそのための仕組みや条件を整備すること」に置かれています。ただスタートのころは別として、実行しても目立った成果が得られないためか、全国的には運動の広がりや深まりは見られませんでした。そうしたなかで、どうしてJA福光ではこの運動が続いているのか、大いに興味があります。組合員のつながる心、あるいは協同組合理念に対する深い理解に支えられているからだと思いますが、実際はどうなのでしょう。

幅田：わたし自身は1980年に福光農協に入りましたから、スタートのころの話はよく分かりません。あくまでも資料や文献を読んだ「仮説」にすぎないこととお断りしておきます。

なぜこの運動が続いているかという点ですが、第1に、わがJAの基幹作物であるコメをめぐる情勢はこの間一度たりとも好転したことはなかったという事実です。絶えず厳しい状況に追い込まれてきました。ですから営農面はもとより、生活面、経営面においても、絶えずバージョンアップが求められてきました。

第2に、この間の協同活動強化運動(地元では「協活」と略称)の歩みは、JA福光の組織・事業・経営の歩みと重なっているという事実です。JA福光は、旧福光町内の旧村(明治22年の明治合併村)を単位に11地区で構成されていますが、1966年の8農協の第1次合併、69年の3農協の第2次合併、2000年の2農協の第3次合併を経て、現在に至っています。ですから、69年の第2次合併以降の農協づくりの過程で「協活」が深められていったという経緯があります。

この過程はまた、カントリーエレベーターの設置と軌を一にしています。1966年の第1次合併時に「カントリーエレベーター整備方針」が定められ、69年の第2次合併時に1号機、翌70年に2号機、90年に3号機、93年に4号機、少し飛んで2006年に5号機までが完成し、合計5基(サイロ42本)の「ライスコンビナート」が誕生しました。基盤整備の進行



5基のカントリーエレベーターが稼働

に合わせて集落営農組織を育成し、同時に乾燥調製作業は農協に一元化して有利販売をめざす。これを「福光農協一農場化」と呼んでいます。この取り組みによって効率的で効果的な福光農業を実現してきました。

第3に、わがJA福光では「JAは自主的組織だ」という理解が浸透しています。自分たちで考えて、さまざまな議論をして、みんなのJAをつくっていく—そんな気風がみなぎっています。われわれは特別なことをしているわけではな

い、当たり前のことをしているだけだという認識です。

単純なことですが、当たり前のことをしているのでやめるという発想がなかったというのが長く続いている理由です。もしやめるのであれば「協活」に代わる新しい取り組みを提案していかなければなりません。しかし、それは簡単なことではありません。農業とか農協のやっていることについて真剣に議論したい、意見をいいたいという人はいっぱいいます。

石田：始めたものをやめるには大きなエネルギーが要ります。

協同活動強化第16次3か年（2022～24年度）運動のスケジュール（抜粋）

メインテーマ「安心して暮らせる地域社会をめざして～持続可能な農業と地域共生の未来づくり～」				
営農部会：次世代へつなぐ地域農業の実現				
生活部会：豊かで暮らしやすい地域社会の実現				
経営部会：次代へつなぐ地域に根ざした協同組合を目指して				
年度	月日	事項	内容	
2021年度	6月29日	協同活動幹事会員の任命・幹事会の開催	第16次3か年運動の計画検討・協議開始 審議委員の委嘱、正副部会長の指名 営農・生活・経営部会ごとに審議 第16次3か年運動の計画審議結果報告	
	7月16日	運営審議委員会全体会議		
		各部会ごとに検討審議（7月～11月）		
	12月22日	運営審議委員会全体会議		
	12月24日	地区代表者会議		
	1月下旬	地区センター協同活動推進協議会		
2022年度 2023年度	2月	集落座談会	地区センターごとに提案・審議、意見交換	
	3月	理事会		
	5月下旬	通常総代会		第16次3か年運動の実践決議（一・二年目） 今年度実践状況と翌年度計画見直し
	12月中旬	運営審議委員会全体会議		
	12月下旬	地区代表者会議		
1月下旬	地区センター協同活動推進協議会			
2月	集落座談会	今年度実践状況と翌年度計画見直しの審議		
2024年度	5月下旬	通常総代会	第16次3か年運動の実践決議（三年目） 第16次3か年運動の実践報告	
	12月中旬	運営審議委員会全体会議		

出所）J A 福光『協同活動強化第16次3か年運動 “安心して暮らせる地域社会をめざして”』（2022年1月）

幅田：3年間にわたる「協活」（中期計画）は、初年度の6月下旬の幹事会の設置、7月中旬の運営審議委員会の設置でスタートします。ここで、幹事会はJ Aの常勤理事・代表監事、幹部職員で構成されています。また、運営審議委員会はJ Aの常勤理事・非常勤理事・監事、学識経験者、総代表、生産組合協議会代表、組合員代表、青年部・女性部代表、消費者代表、営農組織代表、生活組織代表のおよそ90名で構成されています。J Aの常勤理事・代表監事を除く運営審議委員は「営農部会」「生活部会」「経営部会」のいずれかに分属します。

幹事会と運営審議委員会が設置された後は、毎年度、ルーチン化されて会議が回っていきます。7月～11月に部会ごとに検討審議が行われ、12月中旬に運営審議委員会全体会議が開かれます。

このとき重要なことが一つあります。全体会議が開かれる数日前に、南砺市農業再生協議会で福光地域の主食用米の生産目標（数量）が決定され、それを受け

て福光水田農業協議会臨時総会で11地区の主食用米の生産目標(数量・面積)と生産調整面積が決定されるということです。いわばこの時点で翌年度の水田農業の全体計画が決まるわけです。

この決定を受けて、12月下旬に地区代表者会議を開催し、また1月下旬に地区センター協同活動推進協議会(11地区合計およそ1,000名で構成)を開催して地区組合員への周知徹底を図り、2月の集落座談会へつないでいくという段取りになります。最終的には翌年度の通常総代会で承認を受けます。

石田: うまくできていますね。いうならば「協活」が参加・参画の農協づくりの要に位置しているわけですね。

■ 福光は香り高い文化の町

石田: J A 福光は第2次合併後の1975年度に第27回家の光文化賞をおとりになりました。協同活動強化運動の始まる2年前で、当時の農協名は「福光町中央農協」でした。

幅田: 福光町中央農協はその後、福光中央農協に名称変更しました。為替の関係で字数が多いというのがその理由でした。名称変更後の福光中央農協と福光町の中心市街地(福光地区)にあった福光町信用農協が2000年に合併して現在の福光農協が誕生したのです。

石田: そうであれば、家の光文化賞に再度チャレンジする権利がありますし、チャレンジするにふさわしいJ A運動を展開していると思います。何よりも協活を現在も続けていることは高く評価できます。

それに広報誌『J A ふうみつ ファースト』を拝見していると、文化活動の盛んなJ Aであることが分かります。毎号、「福光俳句会」「南砺川柳会」、そして「福光短歌会」または「北山田短歌会」の作品が掲載されていて、香り高い文化の町の雰囲気が伝わってきます。

幅田: じつは南砺市全体で公民館活動が盛んです。南砺市は公民館のことを「交流センター」と呼んでいて、その管理運営を各地区の「地域づくり協議会」に委託

しています。南砺市が補助金の形で支援し、その代わりにセンターの管理運営は全部、地域づくり協議会でやってくださいねという手法をとっています。

そんなことから地域づくり協議会の会長は、以前の自治振興会長に当たるような地位にあります。地域づくり協議会の自治意識は高いものがありますし、交流セン



俳句・川柳・短歌の人気企画は毎号掲載され、「女性部だより」の企画では各支部の活動の写真から活発な様子が伝わる

ターのメンテナンスも行き届いています。J Aの女性部活動もそちらを利用することが多くなっています。

J Aとの関係でいえば、理事の推薦を各地区の地域づくり協議会に行ってもらっています。

石田：そうなんですか、伝統が生きているという感じがします。

幅田：文化といえば、2022年度の第37回「家の光童話賞」で優秀賞に輝いた『田んぼの一ばん』は、J A福光の長谷川のりえさんの作品です。春夏秋冬にわたる田んぼの風景を、家族の会話のなかで生き生きと描いています。最後に、孫が

「ぼくね、夏の田んぼ、すきだよ。
春も秋も冬もすき。ぜんぶが一ばん」
というと、
「おや、そうかい。田んぼは一年中、
あいされているんだねえ」
ばあちゃんが おちやめに田んぼにむかって
なげキッスをしてみせたので
みんながわらいます。

で締めくくっています。

作者の長谷川のりえさんは、じつは西太美地区選出の長谷川慶一理事の奥さんです。

石田：2020年の第62回家の光大会（福岡市）では、富山県代表としてJ A福光女性部広瀬支部の鈴木和代さんが『これまでも これからも』を発表しました。充実した女性部活動を語っていますが、そのなかで女性部の集落長となった鈴木さんが、集落ごとに毎月開かれる「くらしの会」に取り組む様子を紹介しています。どの集落も毎月「くらしの会」を開いているのですか？



第62回全国家の光大会で富山県代表として発表した鈴木和代さん

幅田：管内には全部で100ほどの集落がありますが、現在くらしの会を毎月開いているのは16集落と聞いています。徐々に部員数が減少し、集落活動を行うことが難しくなっています。活動するのは楽しいけれど、役員になるのはちょっとね、という声も聞こえてきます。

石田：それでも16集落というのはすごい数です。

幅田：集落活動はやめたけれど、個人会員制に移行して活発な支部活動を続けているという地区がほと

んどです。その様子は広報誌『J Aふくみつ ファースト』の「女性部だより」で毎号紹介しています。

石田：その「女性部だより」で興味深い活動が2023年6月号に掲載されていました。石黒支部の「総会 ジャズコンサート 富田家住宅訪問」という記事です。中川敬子氏によるジャズコンサートを国の登録有形文化財の富田家住宅で開いたという内容でした。

幅田：石黒地区にお住まいの中川さんはアマチュアですが、ジャズがとても上手で、中川さんのお知り合いの富田家で支部の総会を開いて10曲くらい歌ってもらったそうです。富田家住宅はお隣の安居地区(J Aとなみ野管内)にあります。音響装置も揃っている立派な住宅です。

南砺市民の文化への関心は一般に高く、たとえば旧福光町では「福光まちなか文化祭」や「福光芸術文化祭」を毎秋開いています。不肖わたくしも在所の高宮地区では、J A女性部高宮支部の主催で「マンドリンミニ演奏会」を開いたことがあります(2020年10月11日、於高宮公民館)。

はばまろのマンドリン

「はばまろ」とは、だれであろう幅田浩司氏のことである。「はばまろのマンドリン」は、その幅田氏のHP上のハンドルネールである(2008年10月18日開設)。ちょっと意外な素顔がのぞけるので、ぜひHPを開いてほしい。

HPでは多彩な活動歴が紹介されているが、そのなかには「高宮夏祭り」「高宮営農組合 設立5周年記念『秋まつり』」「高宮公民館 お年寄りの集まり『おいでま会』」「社会福祉法人福寿会『やすらぎ荘』慰問」「J A福光デイサービスセンター『日向ぼっこ』慰問」「美川児童館クリスマス会ミニコンサート」「グループホーム『柿の華』慰問」のほか多数の社会的活動が含まれている。もちろん、このほかに本格的なコンサートの活動歴も詳しく紹介されている。

はばまろは高校時代に独学でギターを始め、大学進学後に富山大学ギターマンドリンクラブでマンドリンに出合ったとされる。社会人となってからは富山プレクトラムアンサンブルや金沢マンドリンアンサンブルで活躍している。2017年には単独イベント「幅田浩司生誕60周年記念パーティー」が開催された。にぎにぎしい表現であるが、要は「還暦のお祝い」のことである。

本文で紹介したJ A女性部高宮支部「マンドリンミニ演奏会」では、「アメージンググレース」「海の声」「神田川」など、だれもが知っている名曲の数々、計8曲が披露された。

現在は来る11月23日開催予定の金沢マンドリンアンサンブル演奏会に向けて練習を重ねているという。

活動が分かるWebページは[コチラ](#)から。



マンドリン演奏会で曲を披露する幅田組合長